

6

わたしは、わたし！

今日は、北九州市小倉北区の小学二年生、河野真秀さんの作文を紹介します。本人の朗読でお聴きください。

『わたしは、わたし！』

北九州市立桜丘小学校二年 ころの まほ

ありがとう、メアリー。せかいでさいしょにズボンをはいた女の子。あなたがいてくれたから、今、わたしは、なわとびもてつぼうも、思いつきりできるのよ。知らない人の前では、はずかしくて話せない、よわ気なじ分でも、「じ分は、じ分でいいんだ。」と思えるのよ。

夏休み、わたしは「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」という本を読んだ。みんなに「おかしい。」と言われても、「わたしは、わたし！」と、思って、ズボンをはきつづけたメアリーのことが大すきになった。とてもかっこいいと思ったから、なん回も読んだ。なんだかゆう気が出てきて、ワクワクしてきたよ。

これから先、「女の子なんだから。」とか「子どものくせに。」とか言われても、まけないよ。「人がなんとやうとかまわらない。わたしは、わたし！」って言うよ。人とちがうことをしている人を見て、わらったり、からかったりしている人を見たら、知らん

ぷりしないで、「そんなのおかしいよ。やめて。」ってゆう気を出して、ちゆういをするよ。

だって、やりたいことをあきらめないメアリーみたいになりたいもん。ゆう気を出したら、だれかがよろこんでくれるかもしれないもん。「まほ、ありがとう。あなたがいたから、わたしはがんばれるよ。」って、言ってくれるかもしれないもん。そんな人に、わたしはなりたないな。

「わたしは、わたし！」それでいい。それが、いい！

いかがでしたか。

女の子がズボンをはくという、今では当たり前前なのが許されなかった時代に、周りから非難されても、「自分が着たいものを着る」という意志を貫き通したメアリー。作者は、そんなメアリーから勇気をももらったんですね。

その勇気とは、何か言われても負けずに、「わたしは、わたし！」と言える勇気。そして、おかしと思うことをしている人を見たら、知らんぷりせずに「やめて」と言う勇気。

今度は自分が、メアリーのようになりたいと言う作者、素晴らしいですね。応援しますよ。

では、また。

